

令和4年度

帰国生入学試験問題

国語

(50分)

注意

- 1 この問題用紙は、試験開始の合図で開くこと。
- 2 問題用紙および解答用紙に受験番号・氏名を記入すること。
- 3 答えはすべて解答用紙に記入すること。
- 4 字数制限のある場合は、特別な指示がない限り、すべて句読点や「」「」などの記号を含んだ字数として解答すること。
- 5 印刷がわからない場合は申し出ること。
- 6 試験終了の合図でやめること。

東京都市大学等々力中学校

受験番号		氏名	
------	--	----	--

一 次の——線の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して答えなさい。

- 1、野党からの質疑に答える。
- 2、複数の会社の株主になる。
- 3、オリンピックが閉幕する。
- 4、セーターが少し縮む。
- 5、同級生の家を訪ねる。
- 6、同じケイレツの店に異動になる。
- 7、旅客機をソウジユウする。
- 8、建物のケイビにあたる。
- 9、問題解決のためにサクを講じる。
- 10、国をオサめる立場になる。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「ぼく」(木下広葉)は、潮風第一中学校一年生で栽培委員をしている。小学校五年生のときに風邪をひいて以来、人と接する緊張感から外ではマスクをはずせなくなっていた。ある日、同級生の工藤の振り回していた傘が手から抜けて花壇に落ち、栽培委員会で管理していた花が折れたり、つぶれたりしてしまった。それを見ていた「ぼく」は、工藤を怒鳴りつけたが、ついカッとなったことを後悔していた。帰宅後、雨風が激しくなり、「ぼく」は花壇にシートをかけて雨を防ぐと、再び学校へ行った。一人ではうまくシートをかけられず苦労しているうちに、思わずマスクを取ってポケットに入れた。そのとき、栽培委員の菊池さんとほんわかせんばいが、「ぼく」に声をかけてきた。

菊池さんがうなずく。

「ひとりじゃ、無理だよ」

「わたし、早川先生を呼んでくる。ほかにも、手伝ってくれそうな人に声をかけるね」

え、いや、ひとりだけでやるからいいです、とほくが言う前に、ほんわかせんぱいは、かけだしていた。

菊池さんが、ほくの手にあるブルーシートを見る。

「塀へいの上にかけても、とめられないんじゃない？」

「ガムテープを持ってきたんだけど、無理かな？」

「塀が乾いていてもつきにくそうだし、これだけぬれてたら無理じゃないかな」

菊池さんが傘を閉じて、足元に置いた。

「とりあえず、水をくみ出そう」

菊池さんがすたすたと歩きます。ほくもあとに続いて、手洗い場に向かった。バケツを持って正門に戻り、右側の花壇の水をくみ始める。菊池さんは左側の花壇の水をくみ始めた。

前髪から落ちるしずくと、顔を打つ雨がうつとうしい。ほくはジャージの袖で何度も顔をぬぐいながら、水をくんで側溝そくこうに流した。だが、くみ出してもくみ出しても、水は減らない。側溝の水はうねるように流れ、いまにもあふれだしそうだ。

くそー、きりがない。

ほくは、なにもできない自分にいらだった。

「おーい」

ふとまゆセンパイが早川先生の傘に入って、歩いてくる。早川先生は片手にブルーシートを持って、ふとまゆセンパイがぬれないように傘をかたむけていた。花壇を見て、うーむと、ふとまゆセンパイがうなる。

「ひたってるねえ」

「なにのんきなこと、言ってるの」

ほんわかせんぱいが、数人引き連れてやってきた。川口センパイに阪田(半)。その後ろから来たのは――。

工藤？　なんで？

胸のあたりが、A　きしむ。

阪田がやれやれと、笑った。

「おまえら、^①ムダなことしてんなあ」

ほくはむっとした。思わず声のボリュームが上がる。

「つせえな。ムダでもやらないより、やると決めたんだ！」

言っつてすぐ、はっとした。□元に手をやり、マスクをはずしたことを思いだす。

あー、また勢いで言っつてしまった。

勢いで言うのはこりたのに、くり返している自分が嫌いやになる。阪田の視線を避けようと目をそらしたら、工藤と目が合った。

「あ、おれ、昇降口で阪田に会っつて……」

工藤が遠慮がちに、ぼくの顔をのぞきこんだ。不安そうな表情だ。

阪田が口をはさんだ。

「工藤が『木下、おこっつた？』って聞いてきてさ。おれが知るか、自分で聞けよ、っつてことで連れてきた」

「え？」

もしかして、ぼくは思いちがいをしていたのか？ ぼくは工藤に切り捨てられたと思っつていたけど、工藤もぼくに許してもらえないと思っつていたとか？

「ごめん……」

工藤がつぶやいた。そして、みんなを見て頭を下げた。

「傘で花を傷っつてしまいました。すみません」

みんなが「えっ、そうなの？」という表情になる。^② ぼくはあわてて手をふった。

「あ、いや。工藤はわざとやっつたんじゃなくて、手から傘がすっつぽ抜けただけなんだ。なのに、ぼくが腹を立てちゃっつて……。ぼくこそ、ごめん」

工藤が意外そうな顔をして、ぼくを見た。ぼくはどこを見っつていいかわからなくて、視線を泳がせた。

「えーと、あの、シートをかけるの、手伝っつてくれる？」

ぼくが言っつと、工藤は神妙おもな面もちで聞っつてきた。

「いいの？」

「うん、助かる」

ふっつと、工藤がほおをゆるめた。細い目がさらに細くなる。

ふとまゆセンパイが、B 工藤の肩を抱きしめた。

「メルシーポーク(注2)」

「メルシーポークー！ ポークはブタっ」

川口センパイのツツコミに、みんなが笑った。早川先生は工藤とぼくを見て、大きくうなずいた。「やるか」

阪田がさしていた傘を閉じて足元に置き、みんなも同じように傘を閉じる。

ふとまゆセンパイは、ジャージの袖をたくしあげた。

「やろー」

ほんわかせんばいはほんわかトーンながら、雨音に負けない声を出した。

「まず、シートを持って屋根をつくります。その間にたまっている水をくみ出しましょう。だいたいくみ出せたら、花が出るようにシートを切つて、花壇の土を覆うように置いてください」

なるほど、そういう方法があったかと思っていると、

「りょーかい！」

川口センパイが元氣よく返事した。

「ブルーシート、もう一枚持ってきましたよ」

早川先生が差し出したシートを、川口センパイとほんわかせんばいが受けとり、左側の花壇の上に広げた。その下で、菊池さんとふとまゆセンパイが、バケツや手で水をすくい始める。

右側の花壇の上には、早川先生と阪田がシートを広げ、すぐに工藤が手で水をすくい始めた。

「木下、ぼやっとすんな」

阪田の声に、はっとした。あわてて水のくみ出しにくわる。

さつきとはちがい、みるみるうちに水が減っていく。ブルーシートの屋根と、手際よさのおかげか。

「よし、シートを下ろすぞ」

阪田と早川先生がシートを、花のぎりぎりのところまで下ろした。

ぼくと工藤がカッターで、ちょうど花があるあたりに十字を切っていく。シートをかぶせながら、十字から花が出るようにして花壇全体をシートで覆った。

それから、花壇の外にシートのはしをたらし、たまった水が流れ落ちるように工夫した。

どんどん空の闇が濃くなっていく。風に飛ばされないようシートに石やレンガをのせたころには、すっかり夜になっていた。

「こっちは、終わったぞー」

阪田が左側の花壇に向かって言うと、ほんわかせんぱいの声が返ってきた。

「こっちは、まだー」

ぼくたちは左側の花壇に行き、シートに石やレンガをのせる作業を手伝った。

「できたー」

菊池さんが立ちあがって、川口センパイたちとハイタッチした。

早川先生は、みんなに言った。

「保健室でタオルを借りますから、体を拭いて制服に着がえてください」

「はい」

ほんわかせんぱいたちがぞろぞろと、明かりに向かっていく。校舎の上に設置された照明から、白い光が正門に向かって伸びていた。

菊池さんがぼくを見た。

「これで、枯れるのを防げるといいね」

ぬれた髪の毛が、おでこやおおにびったりくっついていて、ぬれそぼった菊池さんを見て、ぼくは急に申し訳ない気持ちになった。

こんなことをしたってムダかもしれないのに、みんなを巻きこんでしまった。

「ごめん……」

ぼくは C、つぶやいた。続けて、みんなの背中に向かってさげんだ。

「勝手にこんなことして、みんなを巻きこんで、ごめんなさい！」

みんながふり返る前に、ぼくは ^③踵を返してかけた。

またやってしまった。空回りしてしまった。雨のなかで園芸作業なんて、青春ごっこかよ。みんなをずぶぬれにさせるほど、意味のある作業だったのかよ。明日は運動会なのに、だれかが風邪でもひいたら、どうすんだよ。

これで花が枯れたら、どう責任とるんだよ！

歩道を守るぼくの横を、ザザーツ、ザザーツと波のような音をたてて車が通りすぎていく。赤信号に立ち止まると、雨音に交じってさげび声が聞こえた。

「木下さーん！」

菊池さんが、畳んだ傘をふってかけてくる。ぼくのそばまで来ると、ハアハア息を切らして、傘を差しだした。

「忘れもの」

交差点に入ってくる車のライトが、菊池さんの顔をひっきりなしに照らします。

ぼくが傘を受けると、菊池さんは口をとがらせた。

④「なんであやまつたりするの？ わたしたちが勝手に手伝ったんだし、楽しんでたんだよ」

「え？」

「だいたい園芸に正解なんてあるの？ 本によつてもちがうし、やって失敗したら、それを次に生かせばいいんだよ。早川先生も言つてたでしょ？」

「あ、グリーンカーテン……」

グリーンカーテンの植物を決めるとき、早川先生が去年の失敗を生かすと言つていたのを思い出した。

菊池さんが手でおでこをぬぐい、ぬれた横髪を耳にかける。

③「ペチュニアとペンタスには悪いけど、もうしばらく、わたしたちの手探り園芸につき合ってもらおう。あの子たち、わたしたちのところに来たのもなにかの縁だと思つてくれるよ、きつと」

ぼくは D、ふきだした。

「都合のいい解釈だなあ」

菊池さんも、ふふつと笑つた。

「最初は枯らしちゃいけないって責任を感じていたけど、わたしは当たつて I ことしかできないから、なんでも経験だつて思うことにしたの」

なんとという前向き思考。⑤「すごいな、菊池さんつて。」

信号が青になり、菊池さんが手をあげた。

「じゃあね」

「あつ傘、ありがと」

ぼくが傘を持ちあげると、菊池さんの表情がふわつと、やわらかくなった。

「木下さん、顔出しているほうがいいね。なんか安心する」

ドキッと、胸が跳ねあがった。

⑥「そうだ、マスクをはずしたままだった。」

鼓動がさざ波のように全身に伝わっていく。

学校に戻っていく菊池さんの後ろ姿を見ていたら、信号が点滅しだした。

「やばっ」

ぼくはふわふわした足取りで、横断歩道をかけ抜けた。

(ささきあり「天地ダイアリー」より)

(注1)「阪田」……………「ぼく」と同じクラスで栽培委員をしている。

(注2)「メルシーポーク」……………フランス語の「メルシーポークー」(「どうもありがとう」)に引っかけたダジャレ。

(注3)「ペチュニアとペンタス」……………「ペチュニア」「ペンタス」ともに花の名前。どちらも暑さに強く、夏の花壇などで育てやすい。

問一、

A

D

 にあてはまる言葉として最も適当なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号は一度しか使えません。

- ア、ガツと イ、ぷつと ウ、ぎりつと エ、ぼそつと

問二、——線①「ムダなことしてんなあ」とありますが、「ぼく」たちの行動が「ムダ」であることが最もよくわかる花壇の様子を表した一文を文章中から探し、最初の五字を抜き出して答えなさい。

問三、——線②「ぼくはあわてて手をふった」とありますが、このときの「ぼく」の心情の説明として適当なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア、工藤に対して勢いに任せて大声で怒ってしまったことを後ろめたく思う気持ち。
- イ、工藤が皆を味方につけたくて「ぼく」に謝ったことをうとましく思う気持ち。
- ウ、工藤も「ぼく」と同じ気持ちだったと分かり、素直に謝りたいと思う気持ち。
- エ、工藤を責め立てた栽培委員たちの怒りをなんとか抑え込みたいという気持ち。
- オ、工藤が言わなくてもいいことまで自分から白状したことを嘆かわしく思う気持ち。

問四、——線③「踵を返し」の意味として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、かかどを使って地面を強くけり出すこと。
- イ、それまでとは態度をがらりと変えること。
- ウ、進行方向とは反対に向きを変えて進むこと。
- エ、前を向いたまま少しずつ後ろへ下がること。

問五、——線④「なんであやまつたりするの？」とありますが、このときの菊池さんの心情の説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、突然謝ってその場を去った「ぼく」の行動の理由を尋ねて、仲間が心配していたことを伝え、「ぼく」にもっと心を開いてほしいと訴えようとしている。

イ、自分の突発的な行動で仲間に迷惑をかけたと謝る「ぼく」に対して、「ぼく」のやったことは間違いではなかったということ伝えたいと思っている。

ウ、花を枯らさないようにするために「ぼく」が思いついた方法は正しかったので、仲間に対して謝る必要など少しもないのだと元気づけようとしている。

エ、仲間の前で謝った工藤をかばったのは「ぼく」なのに、今度は「ぼく」が仲間に謝っていた姿に納得できず、本心を隠さず話してもraithたいと思っている。

問六、Iにあてはまる言葉として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、はじける イ、砕ける ウ、はずれる エ、受け止める

問七、——線⑤「すごいな、菊池さんって」とありますが、このときの「ぼく」の心情を説明した次の文の空欄にあてはまる言葉を、文章中の言葉を使って三十字以内で答えなさい。

菊池さんの、に感心している。

問 八、——線⑥「そうだ、マスクをはずしたままだった」とありますが、「マスクをはずした」「ぼく」に関する説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、マスクをはずせなかった頃の「ぼく」は、他人に対して強い不信感や嫌悪感けんおを抱いていたが、今は他人のことを信頼し、困った時に助けを求めることとお互いに協力しあえるようになった。

イ、マスクをはずせなかった頃の「ぼく」は、花のみを愛する狭い世界で利己的に生きてきたが、今は花だけでなく他人のことを思いやり、年齢に関係なく様々な人と交流するようになった。

ウ、マスクをはずせなかった頃の「ぼく」は、他人との関係に緊張感を持ちながら過ごしてきたが、今は周囲の人が温かく受け止めてくれたことで、仲間と関わり、活動できるようになった。

エ、マスクをはずせなかった頃の「ぼく」は、感情を素直に出せずにいたが、今は勢いに乗ってありのままの自分の本音を他人にぶつけられるようになり、自分に誇りを持つようになった。

③ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私見によれば、ポピュリズムとは「今さえよければ、自分さえよければ、それでいい」という考え方をする人たちが主人公になった歴史的過程のことである。

個人的な定義だから「それは違う」と口を尖らす人がいるかも知れないけれど、別にみなさんにこの意味で使ってくれと言っているわけではない。

「今さえよければいい」というのは時間意識の縮減のことである。平たく言えば「サル化」のことである。①「朝三暮四」のあのサルである。

春秋時代の宋にサルを飼う人がいた。朝夕四粒ずつのトチの実をサルたちに給餌していたが、手元不如意になって、コストカットを迫られた。

そこでサルたちに「朝は三粒、夕に四粒ではどうか」と提案した。A サルたちは激怒した。「では、朝は四粒、夕に三粒ではどうか」と提案するとサルたちは大喜びした。

このサルたちは、未来の自分が抱え込むことになる損失やリスクは「他人ごと」だと思っている。その点ではわが「当期利益至上主義」者に酷似している。「こんなことを続けていると、いつか大変なことになる」とわかっていながら、「大変なこと」が起きた後の未来の自分に自己同一性を感じることができない人間だけが「こんなこと」をだたら続けることができる。その意味では、②データをごまかしたり、仕様を変えたり、決算を粉飾したり、統計をごまかしたり、年金を溶かしたりしている人たちは「朝三暮四」のサルとよく似ている。

「朝三暮四」は自己同一性を未来に延長することに困難を感じる時間意識の未成熟（今さえよければ、それでいい）のことであるが、「自分さえよければ、他人のことはどうでもいい」というのは自己同一性の空間的な縮減のことである。

集団の成員のうちで、自分と宗教が違う、生活習慣が違う、政治的意見が違う人々を「外国人」と称して排除することに特段の心理的抵抗を感じない人がいる。「同国人」であっても、幼児や老人や病人や障害者を「生産性がない連中」と言って切り捨てることができる人がいる。彼らは、自分がかつて幼児であったことを忘れ、いずれ老人になることに気づかず、高い確率で病を得、障害を負う可能性を想定していないし、自分が何かのほずみで故郷を喪い、異邦をさすらう身になることなど想像したこともない。見知らぬ土地を、飢え、渴いて、さすらい、やむにやまらず人の家の扉を叩いたときに、顔をしかめて「外国人にやる飯はないよ」と言われたときにどんな気分になるものかを想像したことがない。

自分と立場や生活のしかたや宗教が違っていても、同じ集団を形成している以上、「なかま」として遇してくれて、飢えていけばご飯を与えてくれ、渴いていけば水を飲ませてくれ、寝るところがなければ宿を提供することを「当然」だと思っている人たち「ばかり」で形成されている社会で暮らしている方が、そうでない社会に暮らすよりも、③「私」が生き延びられる確率は高い。噛み砕いて言えば、それだけの話である。

「倫理」というのは別段それほどやこしいものではない。「倫」の原義は「なかま、ともがら」である。だから「倫理」とは「他者とともに生

きるための理法」のことである。他者とともにあるときに、どういうルールに従えばいいのか。別に難しい話ではない。^④この世の人間たちがみんな自分のような人間であると自己利益が増大するかどうか」を自らに問えばよいのである。

B、渋滞している高速道路で走行禁止の路肩(注8)ろかたを走るドライバーは他のドライバーたち(注9)じゅんぼうが遵法的にじつと渋滞に耐えているときにのみ利益を得ることができる。全員がわれ先に路肩を走り出したら、彼の利益は失われる。だから、彼は「自分以外のすべての人間が遵法的であり、自分だけがそうでないこと」を、つまり、「自分のようにふるまう人間が他にいない世界」を願うようになる。

これが「非倫理的」ということである。

これはある種の「呪い(のろ)」として機能する。だって「私のような人間がこの世に存在しませんように」と熱心に祈っているわけなんだから。この「呪い」は弱い酸のようにゆっくり、**C** 確実に彼の生命力を殺いでゆくことになる。祈りの力を侮あなどってはならない。

もう一度言うが、倫理というのは別に難しいことではない。今ここにはいない未来の自分を、あるいは過去の自分を、あるいは「そうであったかもしれない自分」を、「そうなるかもしれない自分」を「自分の変容態」として、受け容れることである。そのようなすべての「自分たち」に向かつて、「あなたがたは存在する。存在する権利がある。存在し続けることを私は願う」という^⑤祝福を贈ることである。

倫理的な人というのが「サル」の対義語である。

D、ポピュリズムの対義語があるとすれば、それは「倫理」である。私はそう思う。たぶん、同意してくれる人はほとんどいないと思うけれど、私はそう思う。

自己同一性が病的に萎縮いしゆくして、「今さえよければ、自分さえよければ、それでいい」と思い込む人たちが多数派を占め、政治経済や学術メディアでそういう連中が大きな顔をしている歴史的趨勢(注10)すうせいのことを私は「サル化」と呼ぶ。

「サル化」がこの先どこまで進むのかは、私にはよくわからない。けれども、サル化がさらに亢進(注11)かうしんすると、「朝三暮四」を通り越して、ついに「朝**I** 暮**II**」まで進んでしまう。論理的にはそうなる。そのときにはサルたちはみんな夕方になると飢え死にってしまうので、そのときにポピュリズムも終わるのである。

哀しい話だ。

(内田樹「サル化する世界」より)

(注1)「ポピュリズム」……大衆の利益を最優先にして、既存の体制や知識人に対し、批判的な立場をとる政治運動。

(注2)「春秋時代の宋」……古代中国に存在した国の名前。春秋時代は紀元前七七〇年から四〇三年までを指す。

(注3)「手元不如意」……家計が苦しくお金がないこと。

(注4) 「コストカット」……費用削減。

(注5) 「粉飾」……うわべをとりつくりつって立派に見せること。

(注6) 「溶かしたり」……「溶かす」は運用によって損失させること。

(注7) 「異邦」……よその国のこと。

(注8) 「路肩」……道路を保護するために道路に沿って設けられる帯状の部分。

(注9) 「遵法的」……規則を守っている様子。

(注10) 「趨勢」……社会全体の流れ。

(注11) 「亢進」……物事の度合いが高まること。

問一、——線①「朝三暮四」の意味として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、相手の事情の表面だけを考えて、ただ自分の欲求だけを通そうとすること。

イ、過去の習慣にこだわりすぎて、利益を得る機会を失ってしまうこと。

ウ、目の前のことにこだわって、結果は同じであることに気づかないこと。

エ、表面的なことにこだわって、自分の不利益になることに気づかないこと。

問二、

A

と

D

にあてはまる言葉として最も適当なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア、でも イ、例えば ウ、だから エ、すると

問 三、——線②「データをごまかしたり、仕様を変えたり、決算を粉飾したり、統計をごまかしたり、年金を溶かしたりしている人たちは『朝三暮四』のサルとよく似ている」とありますが、どのような点がサルと「似ている」のですか。それを説明した次の文の空欄にあてはまる言葉を文章中から指定された字数で探し、それぞれ抜き出して答えなさい。

「1、九字」——線③「『私』が生き延びられる確率は高い」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号

問 四、——線③「『私』が生き延びられる確率は高い」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、自分が大事にしている生活の基盤は、「なかま」同士で共有することによって、全体の質が確実に向上していくから。
イ、自分が生活の基盤を得られない状況になっても、「なかま」が当然のようにその基盤を補う施しを与えてくれるから。
ウ、自分一人ではなく「なかま」と共存する環境では、生活の基盤を失う不安が皆無のため、好き勝手に生きられるから。
エ、自分を「なかま」と遇してくれる人々がいると思うことで安心感が強まり、長い間病気をせずに暮らし続けられるから。

問 五、——線④「この世の人間たちがみんな自分のような人間であると自己利益が増大するかどうか」とありますが、この問いに対する答えを筆者の考えにそってまとめると次のようになります。空欄にあてはまる言葉を文章中から指定された字数で探し、それぞれ抜き出して答えなさい。

イエスであれば、自分の行動は「1、二字」的であると言えるが、ノーであれば、自分の行動は「2、三字」的であると言える。

問 六、——線⑤「祝福を贈る」とありますが、この「祝福」と反対の意味で使われている言葉を文章中から二字で探し、抜き出して答えなさい。

問七、I・II にあてはまる言葉の組み合わせとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- | | |
|-------|-------|
| ア、I―四 | II―三 |
| イ、I―五 | II―二 |
| ウ、I―六 | II―一 |
| エ、I―七 | II―ゼロ |

問八、筆者が「サル化」と呼んでいる現象とはどのようなことですか。文章中の言葉を使って、五十字以内で答えなさい。

四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「全然大丈夫」という言葉を初めて耳にしたのは20年ほど前だったか。^① その衝撃を今も覚えている。え、全然は「全然知らない」など否定形につく言葉じゃないの。日本語の乱れここに極まり。でも肯定で使ってみると面白みも感じた。

すっかり定着した全然大丈夫だが、^② 必ずしも誤用とは言えないらしい。言語学者加藤重広さんの『日本人も悩む日本語』によると「全然+肯定」の用法は江戸時代から見られ、明治になっても珍しくなかった。

漱石の『坊っちゃん』にも「全然悪るいです」の台詞^{せりふ}が出てくる。いつの間にか「全然+否定」が主流になったようで、何が乱れなのか分からなくなる。そう考えると、この意識調査も興味深い。国語の乱れを感じる人がだんだん減っているという。

文化庁によると「今の国語は乱れている」と思う人は20年前は85%だったが、直近は66%である。言葉は変化し続けており、むしろ人々の受け入れ幅が広がっているのだろう。

^③ 言葉は世につれ、である。「ブラック企業」は暴力団関連企業を指す^{（注）}隠語^{いんご}だったが、「若者を酷^{こてく}使用する企業」として使われるようになり、問題企業を告発する運動につながった。一方で人種差別の観点から、ブラックを否定的に使うべきでないとの議論も出ている。

「全然+肯定」に戻ると、今の使い方は配慮の意味もあるらしい。「私の料理、おいしくないでしょ」に対して「全然おいしい」と言えば、優しさがにじむ。言葉は、人と人とのつながりも映し出す。

（朝日新聞「天声人語」より）

（注）「隠語」……特定の社会や人々の間だけで通用する特殊な言葉。

問 一、——線①「その衝撃」とありますが、筆者はどのようなことに「衝撃」を受けましたか。それを説明した次の文の空欄にあてはまる言葉を文章中から指定された字数で探し、それぞれ抜き出して答えなさい。

それまでは 1、八字 だと思っていた「全然」を 2、六字 いたこと。

問 二、——線②「必ずしも誤用とは言えないらしい」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、「全然」を否定形で用いる用法は、古いために面白みがなくなり、使われなくなっているから。
- イ、「全然」を否定形で用いる用法は、文学の世界に限定されたもので、一般的とはいえないから。
- ウ、「全然」を肯定形で用いる用法は、現代になって注目され、新たな日本語の主流だといえるから。
- エ、「全然」を肯定形で用いる用法は、江戸時代や明治時代においても、不自然ではなかったから。

問 三、——線③「言葉は世につれ」とありますが、これはどのようなことですか。そのことを説明した次の文の空欄にあてはまる言葉を文章中の言葉を使って四字で答えなさい。

言葉は時代によって 四字 こと。

問 四、筆者は「言葉の用法の変化」について、どのような気持ちを抱いていますか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、世の中の流れと密接に関連することを興味深く思う気持ちや、人と人との優しいつながりを反映する一面があることを感慨深く思う気持ち。
- イ、世の中の流れに明らかに逆行していることに驚く気持ちや、人々が正しい用法よりも誤った用法の方を受け入れていることに感心する気持ち。
- ウ、世の中の流れと無関係な方向に進んでいくことにあきれられる気持ちや、人々を啓発する力を持っていることは信じがたく、不思議に思う気持ち。
- エ、世の中の流れからは予想もできない用法の出現を面白がる気持ちや、人への配慮や優しさを意図せず表現してしまうことを心配する気持ち。

